

3 教育情報ネットワークの教育利用に関する教職員調査の結果

〔設問 1〕

あなたは、パソコンの活用やその研修についてどのようなイメージを持っていますか。あなたの考えに最も近いと思うものにそれぞれ 印を記入してください。

【回答の状況】

次の図 2 - 12 は〔設問 1〕における授業でのパソコンの利用のイメージに関する回答状況を校種別に示したものです。

81.6 %の教職員が授業でのパソコンの利用を肯定的にとらえており、校種別では小学校の教職員が最も高い比率を示しています。

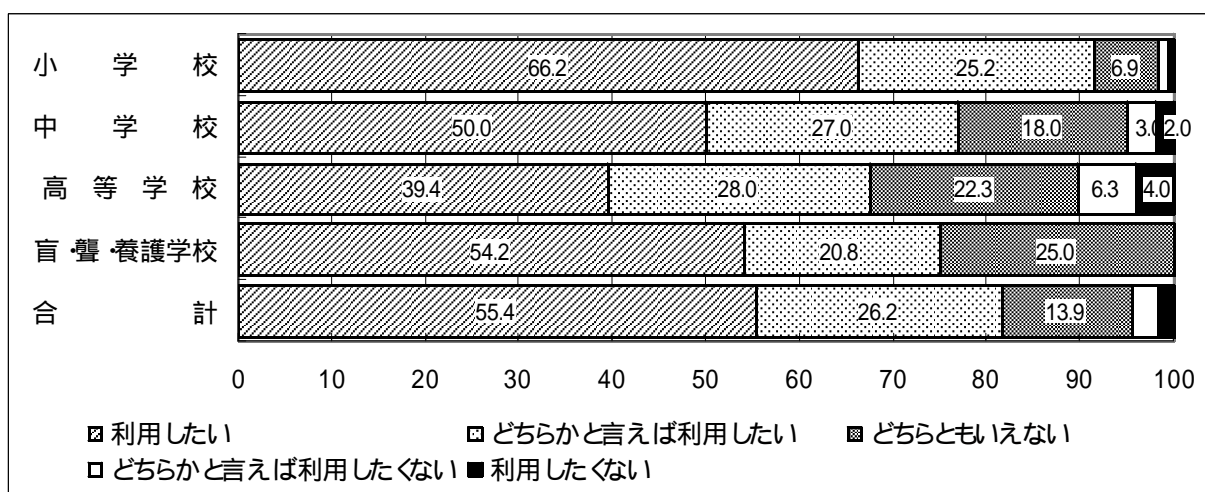


図 2 - 12 授業でのパソコン活用のイメージ 単位(%)

しかし、次の図 2 - 13 で見られるように、授業でのパソコンの利用に関しては、若い教職員ほど肯定的意見が多いという予想に反し、教職経験年数 11 年以上の教職員が 10 年までの教職員より、高い値を示しています。

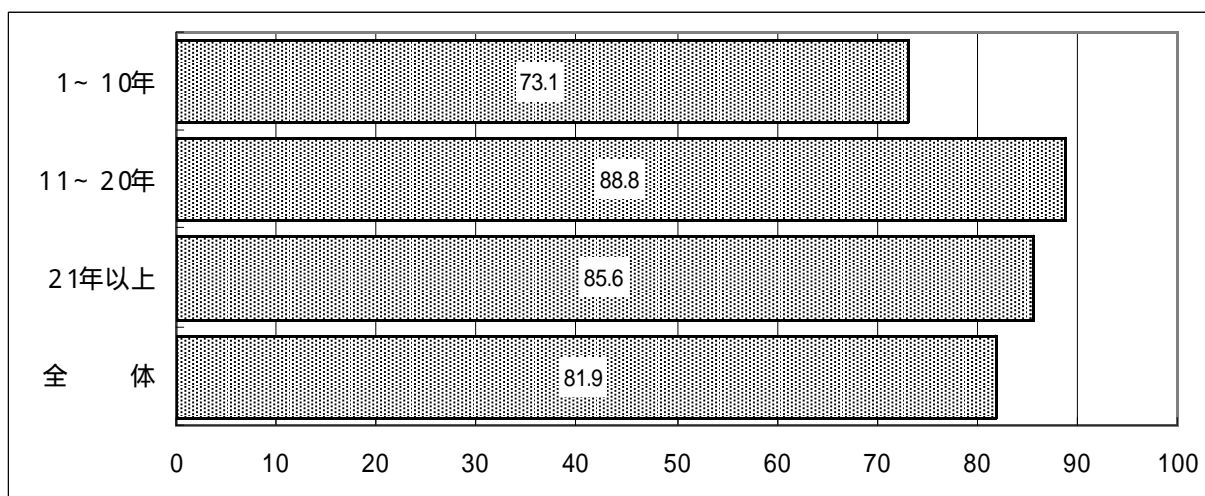
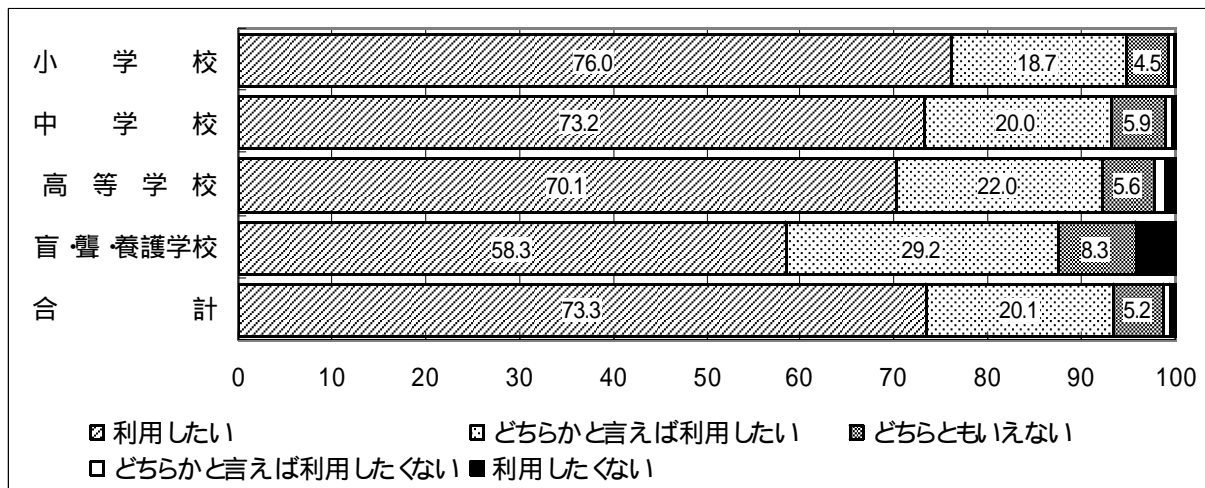


図 2 - 13 授業でのパソコン活用のイメージ(教職経験年数別) 単位(%)

次の図 2 - 14 はパソコンの校務活用に関する回答状況を校種別に示したものです。パソコンの校務活用に関しては、校種を問わず肯定的な回答が多く、全体では 93.4 %の値を示しています。

図 2 - 14 パソコンの校務活用のイメージ 単位 (%)



次の図 2 - 15 はパソコンの研修に関する回答状況を校種別に示したものです。87.5 %の教職員が研修を希望し、特に小学校及び盲・聾・養護学校においては積極的な希望が 70 %前後という高い割合を示し、研修への強い意欲がうかがえます。

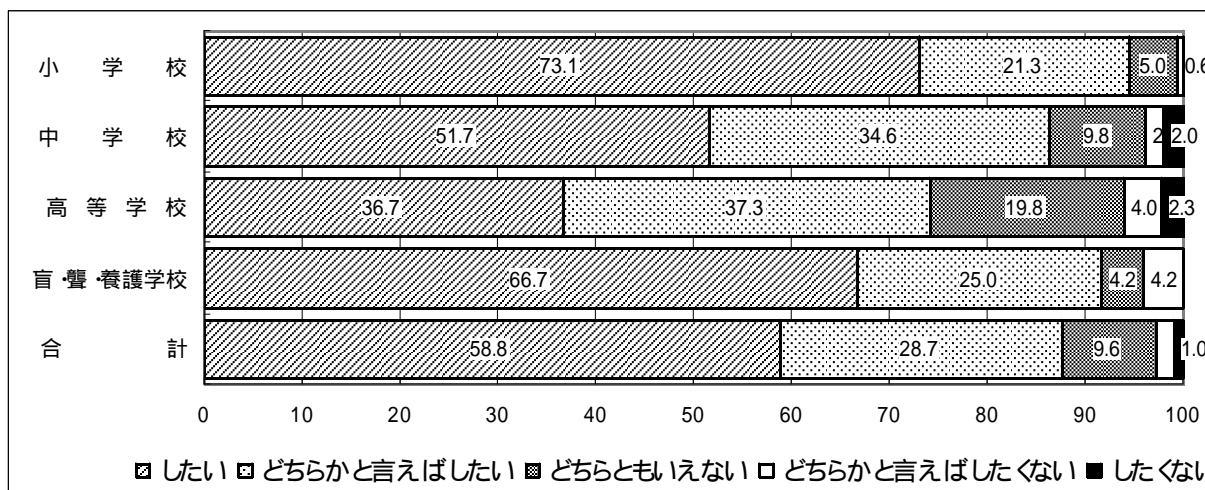


図 2 - 15 パソコンに関する研修のイメージ 単位 (%)

[設問 2]

あなたは、インターネットの活用やその研修についてどのようなイメージを持っていますか。あなたの考えに最も近いと思うものに、それぞれ 印を記入してください。

【回答の状況】

次の図 2 - 16 は [設問 2] における授業でのインターネットの利用のイメージに関する回答状況を校種別に示したものです。

これによると、[設問1]の授業におけるパソコン利用に関する回答状況とほぼ同じ傾向で、授業でのインターネットの利用について過半数が肯定的にとらえており、小学校で最もそれが顕著であり、校種によって若干の差があることを示しています。

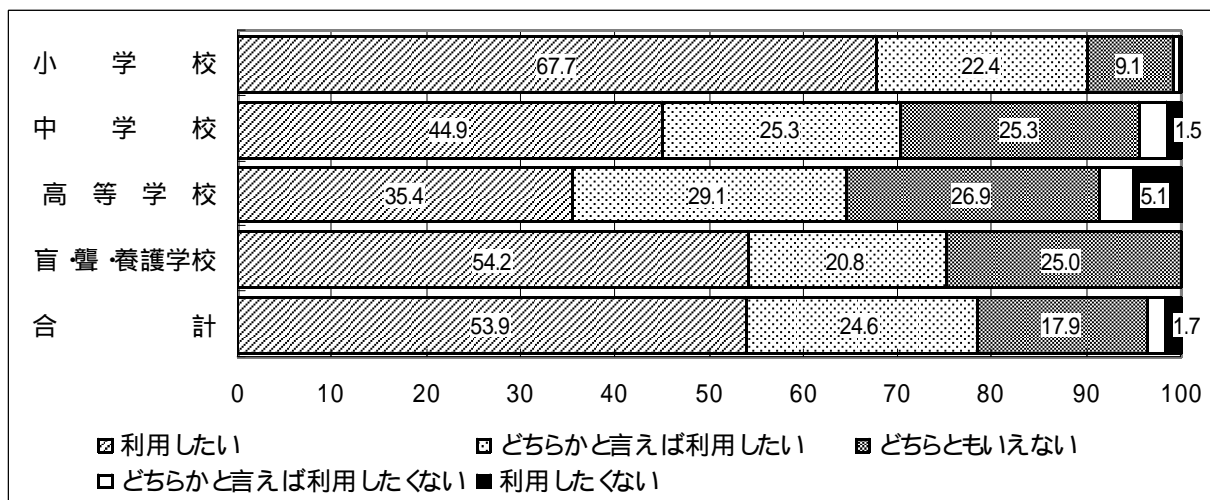


図2 - 16 授業でのインターネット活用のイメージ 単位(%)

次の図2 - 17 は授業でのインターネットの利用に関するイメージの教職経験年数別の回答状況ですが、授業でのパソコンの利用の場合と同じ様に、ここでも予想に反し、教職経験年数11年以上の教職員の方が10年までの教職員より高い割合を示しています。

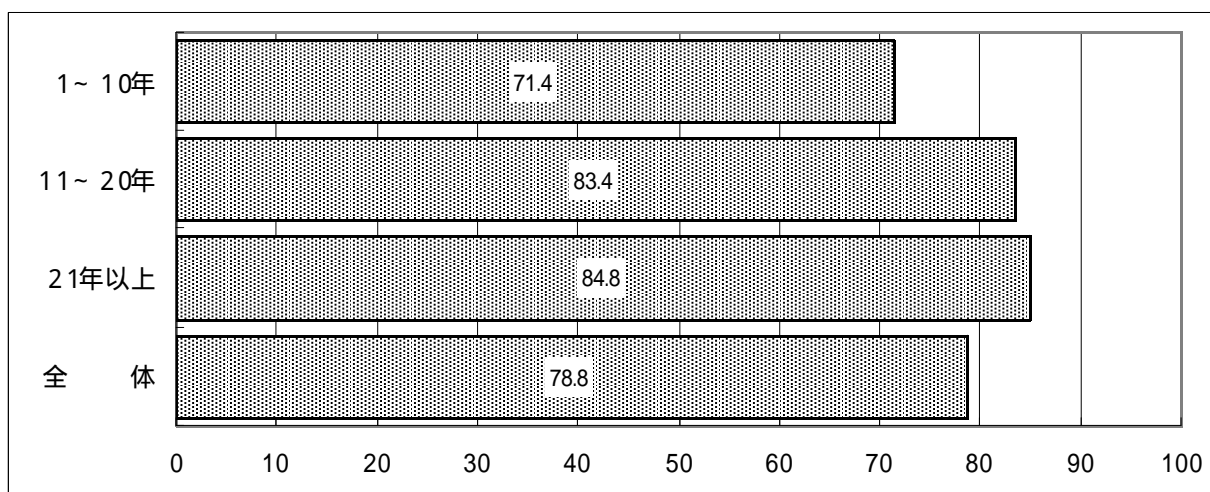


図2 - 17 授業でのインターネット活用のイメージ(教職経験年数別) 単位(%)

次の図2 - 18 は教材研究等でのインターネット利用についての回答状況を校種別に示したものです。校種による差はあまり見られず、70~80%が肯定的な回答でした。

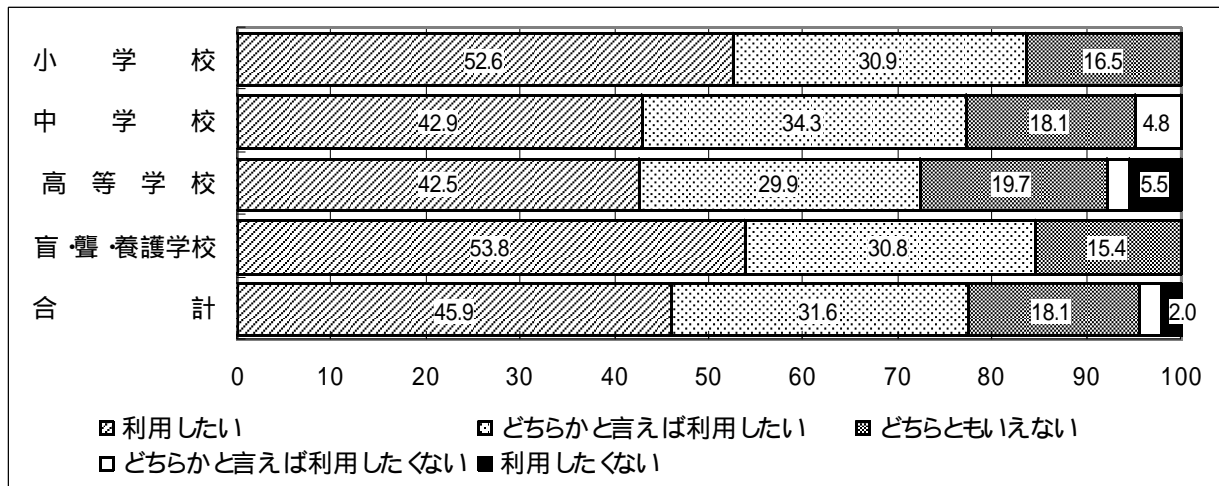


図 2 - 18 教材研究等でのインターネット活用のイメージ 単位(%)

次の図 2 - 19 はインターネットの研修についてのイメージに関する回答状況を校種別に示したものです。

パソコンの研修と同様に研修したいという回答が 78.3 %を占め研修意欲が高いことが分かります。しかし、どちらかといえば研修したいという回答が多い点が、パソコンの研修との差として表れています。

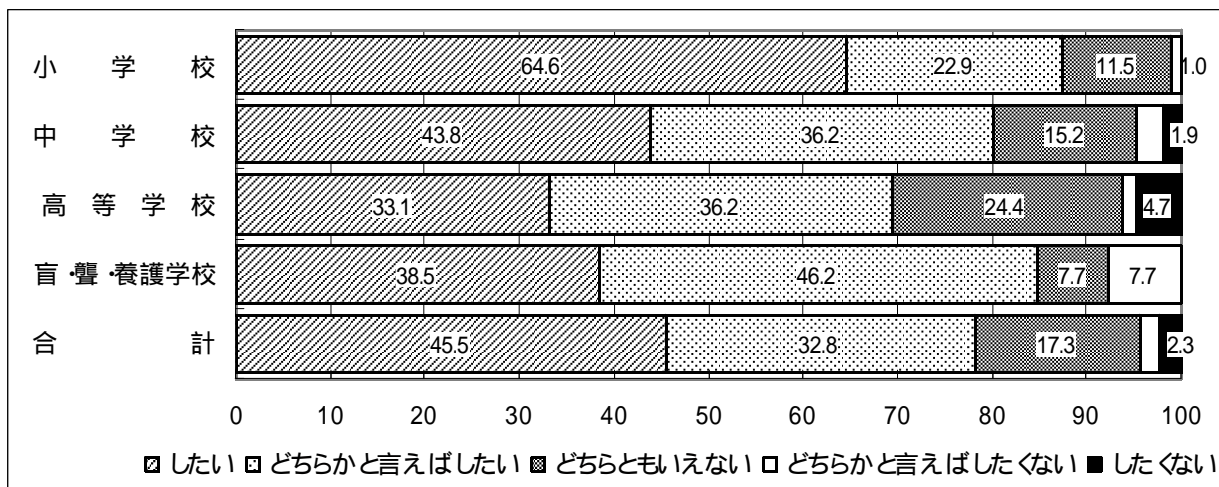


図 2 - 19 インターネットに関する研修のイメージ 単位(%)

[設問 3]

あなたは、学校や家庭等でパソコンを利用したことがありますか。該当するものについて回答欄に 印を記入してください。

【回答の状況】

どの校種においても 90 %以上の教職員がパソコンを利用したことがあると答えています。またその利用時間については、ほぼ半数が 1 か月に 50 時間～ 100 時間となっています。

[設問 4]

あなたは、学校でパソコンを利用していますか。該当するものについて回答欄に印を記入してください。

【回答の状況】

パソコンの学校での利用に関しては、1か月に50時間以上と回答した教職員の割合が40.6%を占めており、10時間以上利用になると70.1%になります。校務処理におけるパソコン活用の定着ぶりがうかがえます。

[設問 5]

あなたは、学校や家庭等でインターネットを利用していますか。該当するものについて回答欄に印を記入してください。

【回答の状況】

インターネットの体験から利用までを含めると69.2%の教職員となり、インターネットが広まってきていることが分かります。その内訳を見ると「体験はしたことがある」と回答した者が28.0%、10時間までの利用者が25.5%、10時間以上の利用者が12.6%となっています。校種別では、盲・聾・養護学校では利用したことのある人の比率が比較的高くなっています。

以下の設問6～設問11は、設問5において「利用している」「体験したことがある」と回答した方を対象としたものです。

[設問 6]

あなたが、利用しているインターネットのサービスのうち該当するものを選んで印を付けてください。

その1	WWW	利用している	利用したことがある	利用したことがない	どのようなものか知らない
その2	電子メール	利用している	利用したことがある	利用したことがない	どのようなものか知らない
その3	CU-SeeMe	利用している	利用したことがある	利用したことがない	どのようなものか知らない
その4	ネットニュース	利用している	利用したことがある	利用したことがない	どのようなものか知らない
その5	メーリングリスト	利用している	利用したことがある	利用したことがない	どのようなものか知らない
その6	電子掲示板	利用している	利用したことがある	利用したことがない	どのようなものか知らない

【回答の状況】

次の図2 - 20 は [設問 6] におけるよく利用されているインターネットサービスの三つを校種別に示したものです。

各校種ともWWWや電子メールについては70～80%の高い値を示しており、1位2位を占めています。3位については小学校、中学校、高等学校ではネットニュースですが、盲・聾・養護学校においてはメーリングリストとなっています。図には表していませんが、各校種とも電子掲示板の利用もあげられています。

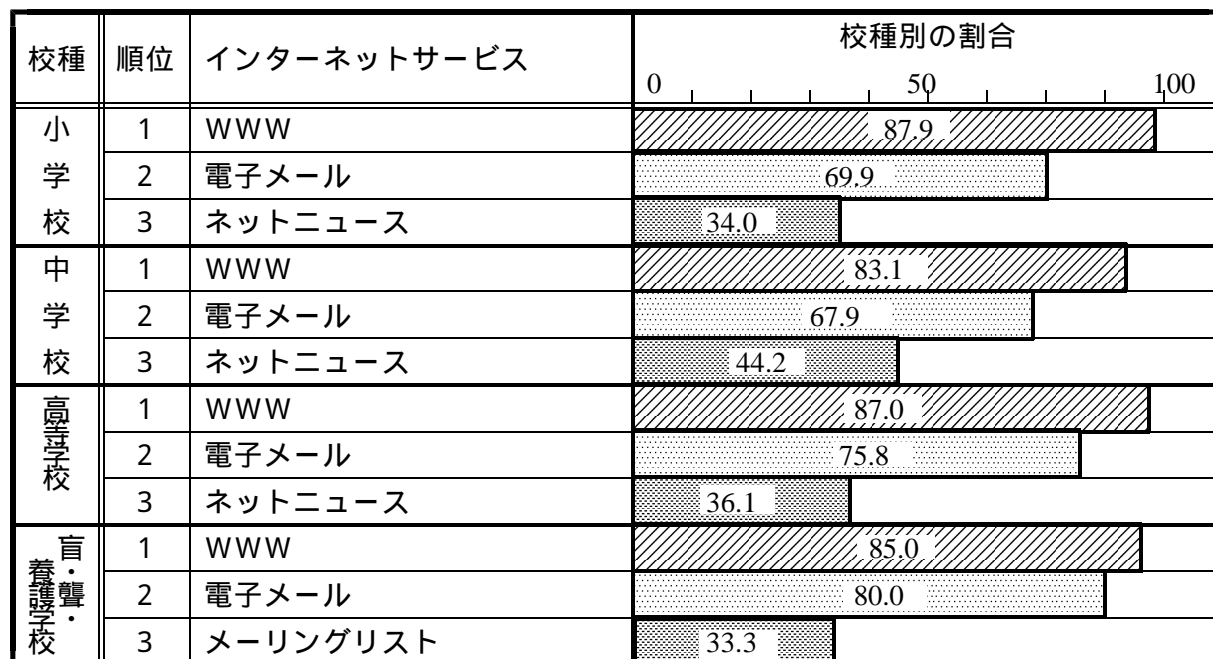


図2 - 20 インターネットサービスの利用状況 単位(%)

[設問 7]

あなたが、下記のようなインターネットのサービスを教育利用する場合、それぞれの教育効果について該当すると思われるものを選んで 印を付けて下さい。

(1) インターネットの機能面

その1 WWWによる情報収集

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

その2 WWWによる情報発信

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

その3 電子メールによる交流

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

その4 インターネット放送等による情報収集

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

その5 CU-SeeMe等のテレビ会議による交流

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

(2) 教育活動の分野

その1 教科教育における利用

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

その2 特別活動における利用

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

その3 教職員が行う資料収集及び他校の教職員との連絡

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

その4 保護者や地域への広報活動

効果がある 少し効果がある 変わらない 効果がない わからない

【回答の状況】

次の図2 - 21 は [設問7] において教育効果が高いと回答のあったインターネットサービスの上位から三つまでを校種別に示したものです。

各校種ともWWWによる情報収集が多く、次いで電子メールによる交流となっています。更に、小学校、高等学校、盲・聾・養護学校ではWWWによる情報発信、中学校ではインターネット放送等における情報収集がこれに続きます。

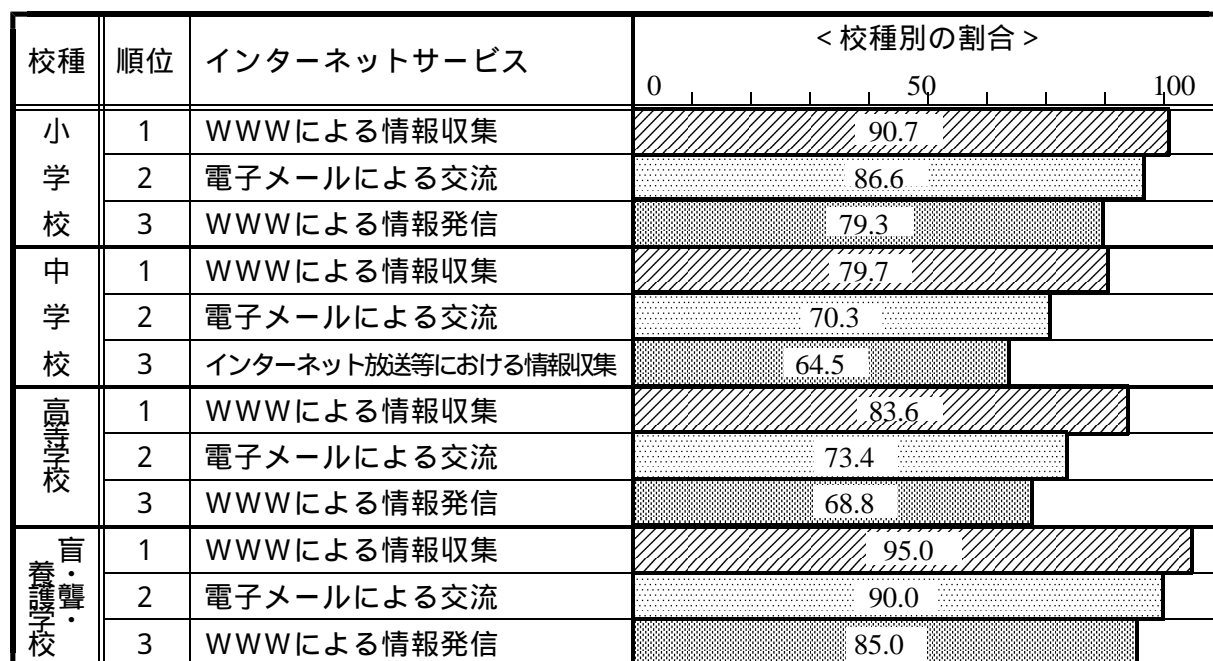


図2 - 21 インターネット機能面から見た教育効果

単位 (%)

次の図2 - 22 は [設問7] における効果の高いと思われるインターネットサービスの教育の分野を上位三つまで校種別に示したものです。

教科教育における利用、教職員が行う資料収集及び他校教職員との連絡は共通しており、この他に校種によって特別活動における利用や保護者や地域への広報活動があげられています。

盲・聾・養護学校では、いずれのサービスも非常に高い割合を示していることが特徴としてあげられます。

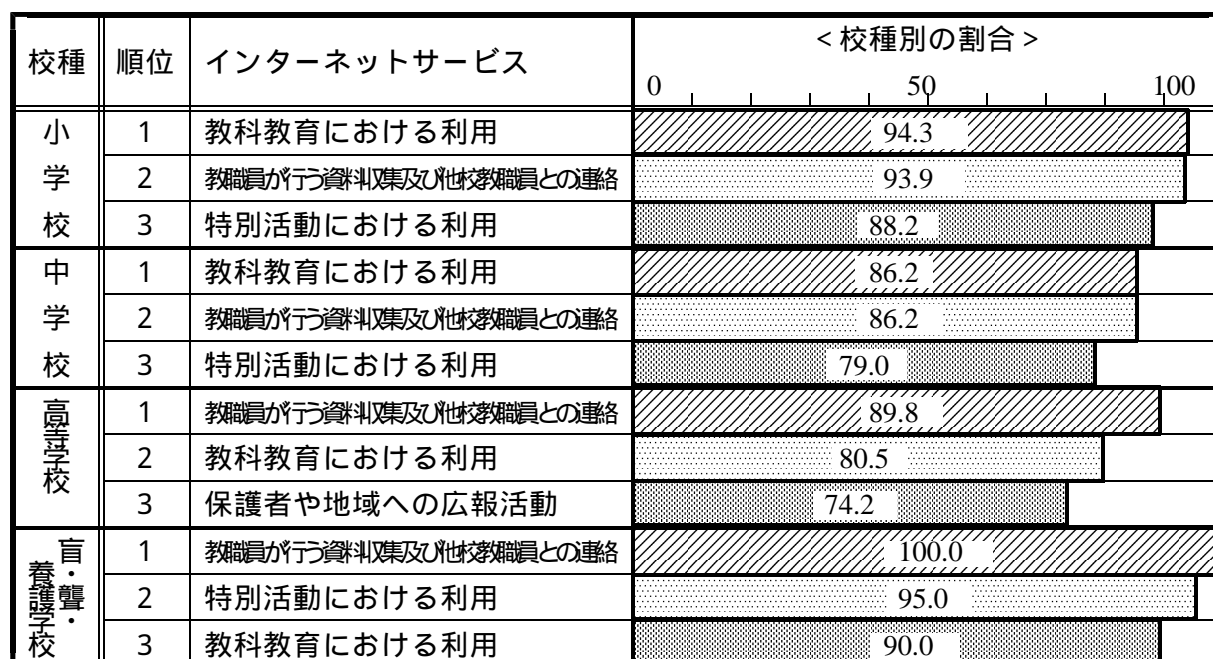


図2 - 22 インターネットサービスに教育効果が期待される教育分野 単位 (%)

[設問 8]

あなたが、今後、情報通信ネットワークやインターネットを教育利用する場合、次のどの点が大切だと思いますか。あなたの考えに最も近いと思うものを三つ以内選んで、最も近いものから順番に、番号を回答欄に記入して下さい。

(回答欄)

順番	1	2	3
選択			

- 1 他の教科や教育活動との連携
- 2 他のメディアとの教育効果の比較
- 3 情報モラルに関する知識を身に付けさせる視点
- 4 情報を主体的に活用できる資質を身に付けさせる視点
- 5 情報活用のためのハード・ソフトについて基本的な理解をさせる視点
- 6 保護者や地域とのコミュニケーション及び連携
- 7 ()

【回答の状況】

次の図2 - 23 は [設問 8] における回答状況を示したものです。この設問のグラフ化に当たり、選択順位ごとに重み付けを行い分析しました。

一番高い割合を示したのは、「情報を主体的に活用できる資質を身に付けさせる視点」で、

以下「情報モラルに関する知識を身に付けさせる視点」「他の教科や教育活動との連携」「情報活用のためのハード・ソフトについて基本的な理解をさせる視点」と続いています。これらは、まさに今後の情報教育の柱となるものです。

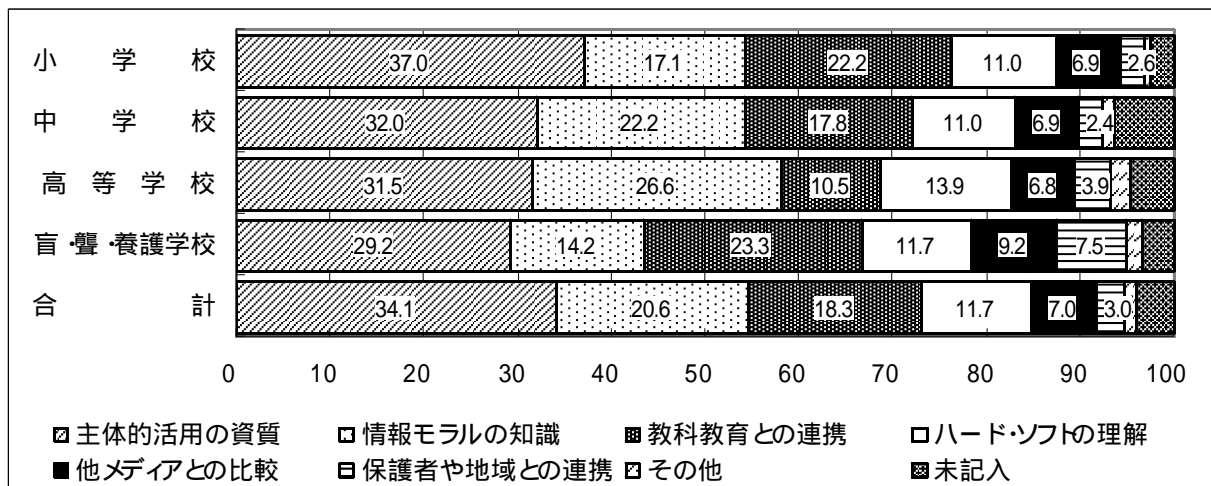


図 2 - 23 [設問 8] における大切な点 単位 (%)

[設問 9]

あなたが、今後、インターネットを教育利用する場合、情報モラル等の教育において、次のどの点が大切だと思いますか。あなたが大切だと思うものから順に三つ選んで、番号を回答欄に記入して下さい。

(回答欄)

順番	1	2	3
選択			

- 1 ソフトウェア等の著作権の保護
- 2 プライバシー等の個人情報の保護
- 3 コンピュータや情報のセキュリティ
- 4 ネットワーク利用上のマナーやエチケット
- 5 その他 ()

【回答の状況】

次の図 2 - 24 は [設問 9] における回答状況を示したものです。この設問もグラフ化にあたり、選択順位ごとに重み付けを行い分析しました。

「プライバシー等の個人情報の保護」が最も高く、次いで「ネットワーク利用上のマナーやエチケット」「コンピュータや情報のセキュリティ」「ソフトウェア等の著作権の保護」と続きます。

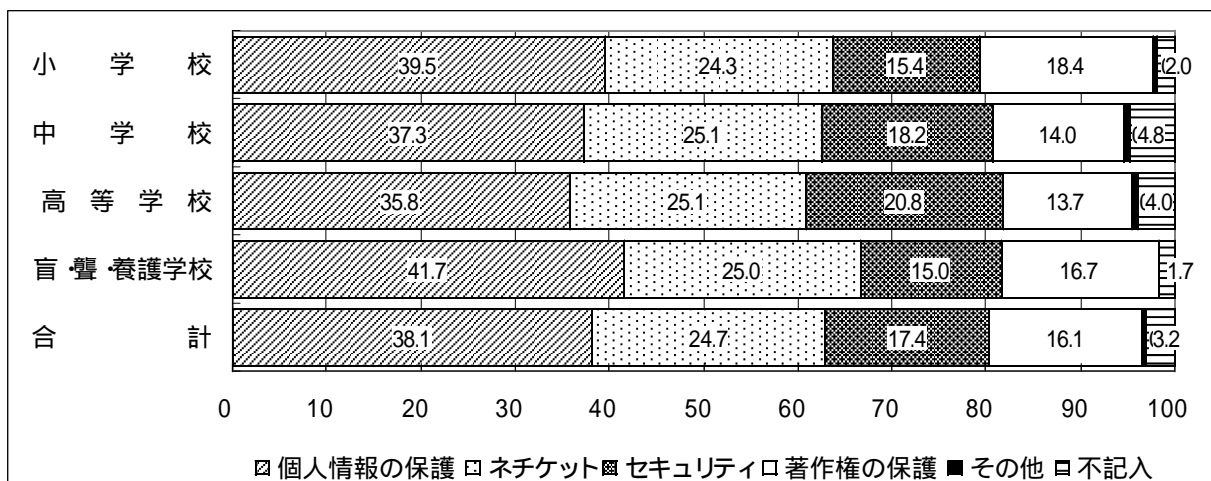


図 2 - 24 情報モラル教育等のうち特に大切な点 単位 (%)

[設問10]

あなたが、学校から京都みらいネットを活用する際にどのようなサービスを望みますか。回答欄に記入してください。(自由記入欄)

【回答の状況】

多い順に「活用事例の紹介」「教職員一人一人のメールアドレス保持」「児童生徒用リンク集の充実」「設備の充実」「アクセスポイントの増加」「技術面でのサポート」などでした。

[設問11]

あなたが、今後学校において情報通信ネットワークやインターネットを活用した教育を進める上で必要と思われる研修内容を回答欄に記入してください。(自由記入欄)

【回答の状況】

多い順に「情報通信の基礎基本」「インターネットの具体的な操作」「活用事例の紹介」「情報モラル・個人情報保護」「著作権」「具体的な授業設計」「ホームページ作成」などでした。

[設問12]

あなたが、今後学校において情報通信ネットワークやインターネットを活用した教育を進める上で課題と思われる点を回答欄に記入してください。(自由記入欄)

【回答の状況】

多い順に「教職員の指導力の向上」「設備の充実」「誰でもパソコンが使える基礎研修」「教科での活用の具体的な研修」「自己研修」「校内研修の充実」「インターネットができる環境を増やす」「指導計画の作成」などでした。